

# 令和5年度 第1回 県立横須賀高等学校 学校運営協議会 記録

令和5年6月14日(水) 14:30～ セミナーホール

## 出席者

鈴木俊彰委員 河野和代委員 丸瀬正委員 岩本毅委員 大竹英恵委員 相楽文吾委員 鑪英治委員(校長)  
野澤恵津子(副校長・司会) 小飛山智康(全日制教頭) 佐野千香(定時制教頭)  
《全日制G》片桐正文(総務グループ) 水戸若菜(進路グループ 代理) 柴田治郎(学問探究グループ)  
山田聡子(生徒支援グループ) 添田譲(広報図書グループ 代理) 野口広敬(教務グループ)  
《定時制G》瓜生正人(カリキュラムグループ) 渡邊敏高(ガイダンスグループ)

## 1 校長挨拶

### (1) 全日制について

#### ① SSH 中間評価について

全国 27 校中良い評価を得たのは 9 校。神奈川の 3 校は内容の見直しをするよう助言があった。

#### ② 進学実績について

難関校への進学数を増やすためにさまざまな取組を行っていく。

### (2) 定時制について

相談・支援体制を強化してさまざまな背景を抱える生徒にきめ細かく対応していく。

## 2 学校運営協議会委員紹介

## 3 学校職員紹介

## 4 会長・副会長選出

大竹委員が会長に選出される。

## 5 会長挨拶

## 6 令和5年度 学校運営の基本方針について

### (1) 全日制について

#### ① STEAM 教育事業推進校となった。SSH とからめて進めていく。

#### ② 難関校への受験を積極的に進め、進路実績を上げていく。

### (2) 定時制について

#### ① 外部との連携を強化し、教育支援体制を一新した。

#### ② 個別の学習支援として ICT 活用による支援を行うため、教員対象の研修を行う。

## 7 本校の教育活動 グループの取り組みについて

### (1) 定時制

#### ① カリキュラムグループ

ICT を活用した学習を進めるため、授業改善を行っていく。新入生 17 名中 14 名が中学校で不登校傾向がある、または長欠の生徒である。彼らが高校生活に慣れ、高校側が学習保障ができるようにするため、ICT を積極的に活用していく。

#### ② ガイダンスグループ

昨年度まで 3 つあったグループ内容を 2 つにした。教育相談を係として独立させた。新入生だけでなく各学年に不登校生徒が多い。定例会議を持ち、生徒の様子をキャッチするとともに生徒の

細かな変化に素早く対応する体制を確立する。様々な生徒に応じたキャリア教育を推進する。

## (2) 全日制

### ① 学問探究グループ

・SSHはⅡ期の3年目に入った。PrincipiaⅢが必修となり、上級生と下級生の縦のつながりを意識した活動ができています。

・STEAM教育研究推進校として公開研究授業などの活動も推し進めていきたい。

・コロナ禍による制限がなくなり、海外交流が盛んになってきた。6月から留学生が来ることに加え、マレーシアでの理科学会で発表する生徒もいる。徐々に海外との交流を活性化していく。

### ② 進路グループ

・進路実績向上を第一の課題として、現3年生の受験に対応できる学力を高め、入試改定を前にした生徒たちに情報提供をしたり、心理面でのサポートをしたりするなど支援を行う。

・現2年生に対し、新教育課程に対応する科目選択指導や進路講演会、面談や補習など、きめ細かな進路指導を行っていく。

### ③ 広報図書グループ

・TwitterやYouTubeを活用した生徒から発信する横須賀高校の魅力に中学生からの評判が高く、年4回の学校説明会でもアンケート結果が良いので手応えを感じている。

・県教育委員会よりiPad28台が支給され、担任がクラス運営や生徒指導に活用している。今後の活用について模索中である。

### ④ 生徒支援グループ

・今年は体育祭の年に当たる。前回はコロナ禍で、ダンスダンスデコレーションと称して体育競技はなく、ダンスと装飾だけだったため、3年生も本来の体育祭の全体像が見えない中、手探りで準備を進めている。

・月に一度、教育相談コーディネーター、養護教諭、生徒支援グループリーダー、管理職とで教育相談コア会議を開催し、生徒情報の集約や情報共有を行っている。新しい教育相談体制の構築に力を注いでいる。

### ⑤ 総務グループ

・学校運営で欠かせない学習環境整備などの業務を行っている。コロナ禍で活動ができなかった地域連携を行っていきたい。具体的には防災訓練への参加であるが、その他にも生徒が積極的に関わっていく活動がないか模索中である。

・PTAの地域ボランティア活動を活性化していきたい。具体的にはセミナーホール前の花壇に花を植えるなどして、校内外の環境美化につとめ、校内は特に緑の多い環境を提供したい。

### ⑥ 教務グループ

・主体的な学びの土台作りとして去年から2学期制と70分授業を導入した。時間の自由度が増したことで、協同的な学びが授業内で多く見られるようになってきている。

## 8 意見聴取 協議・意見交換

### (1) 質問

#### ① 「生徒が伝える横須賀高校の魅力とは？」(大竹会長)

→「Principia」での実践的な学びや部活動に夢中に取り組むところ、どちらも手を抜かず真剣

に頑張っているところを伝えている。」(添田教諭)

- ② 「体育祭の全体像が見えない中、どうやって活動しているのか？必要なら過去のDVDを貸すことができると思う。」(大竹会長)  
→「参考になる。ぜひ貸していただきたい。」(山田総括教諭)
- ③ 「70分授業になったことへの生徒の反応は？」(鈴木委員)  
→「長い、いろいろできる、等の声がある。大部分は好意的な受け止めである。」(野口総括教諭)
- ④ 「令和4年度の進学実績が良いがどんな取組をしてきたのか？」(鈴木委員)  
→「どの学年も同様の指導をしていて他の学年と大きな差はないと思うが、ブレのない指導を心がけてきた。模試の結果を見ながらの個別面談を密に行うなどきめ細かな指導を続けた結果である。」(野口総括教諭)
- ⑤ 「定時制の不登校傾向の入学者の様子は？」(河野委員)  
→「登校状況は良くなってきている。一人は病気のため出席が難しい。」(渡辺総括教諭)
- ⑥ 「定時制では授業に出席できない生徒にはどんな手立てをしているのか？」(河野委員)  
→「発達の課題を抱えた生徒は取り出して指導し出席扱いとするなどきめ細かな指導をしている。」(渡辺総括教諭)
- ⑦ 「Surface と iPad の OS の違いはどうしているのか？Surface の充電の問題は？」(丸瀬委員)  
→「どちらも Office を入れることで対応が可能である。午後になると Surface の充電が無くなってしまいう問題が継続している。校内での充電などの対策が必要である。」(添田教諭)
- ⑧ 「学校見学に行った中学生が横須賀高校の生徒が伝える「Principia」の実践について素晴らしいと言っている。SSHの活動実績は大学入試などでどう評価されているのか。」(河野委員)  
→「Principia」での実績を活用して総合型選抜に進む生徒は数名いる。「Principia」に真面目に取り組んだ生徒は一般受験で良い進路実績を残している。」(柴田総括教諭)

## (2) 意見

- ① 「定時制に進学した生徒に対しては、中学校とも連携して情報共有しながら今後も面倒を見てほしい。」(河野委員)
- ② 「コロナ禍でいろいろなことがストップした3年間だった。その遅れを取り戻すのはどうやっているのかと思うと大変だろうなと思っている。」(丸瀬委員)
- ③ 「横須賀高校のSSHは常に変化していて、間近に見ていても明らかに変わっている。「PrincipiaⅢ」の必修化や手厚い進路指導体制、70分授業の導入など、様々な取組をしているのが分かった。」(鈴木委員)
- ④ 「町内には650人以上の後期高齢者がいる。高齢化が進み、お祭りの担い手がいなのが悩みである。生徒には地区の防災訓練に参加してもらいたいが、日曜実施なので難しいだろう。自助、隣助、近助、共助、公助という言葉をお伝えしたい。生徒には自分の住んでいる地域の防災訓練に参加してほしい。もしもの時はまず地域に生徒を帰さないといけない。ここで災害にあったとしても、まず地元に戻って、地元のお年寄りを助けてやってほしい。  
4月から自転車に乗る場合はヘルメット着用が努力義務になった。自転車で通学する生徒にヘルメット着用努力義務と保険に入ることを伝えてほしい。」(岩本委員)
- ⑤ 「コロナ禍明けの現在、元の社会に戻す動きが広まっている。世の中の動きを知らながら自分が

どのように行動していけば良いかを分かって行動できる生徒を育ててほしい。」(大竹会長)

## 9 その他(事務連絡)

- (1) 9月以降に生徒の様子を見てもらう機会を設ける。
- (2) 1月の会議の日程については後日調整してお伝えする。

## 各部会に分かれて協議(15:25~15:50)

### 第1回地域連携ボランティア部会(15:25~15:50)

岩本委員、相楽委員、校長、定時制教頭(司会)、片桐 GL、山田 GL、瓜生 GL(記録)

#### ・相楽委員より

この3年間、コロナ禍の行動制限でPTA活動(全日制)がほぼ出来ていない状況であった。コロナ前の活動に戻す取組を進めている。現在の3年生(全日制)は、中学校3年生での修学旅行や体育祭ができていなかった。今年の体育祭で、PTAとして協力していきたいが、どのようなかわりができるか知りたい。

#### ・岩本委員より

小中学校の児童生徒とはつながりがある。横高の生徒とは清掃活動(定時制)や部活動(ラグビー部)とのつながりがあったが、コロナ禍でほとんどなくなった。防災面でも、横高は広域避難場所になっているが、避難所は小中学校である。横高の生徒には地元の防災活動に参加するのが良いと考える。体育祭や文化祭で関わりが持てると良いと考える。また、自転車でのヘルメット着用義務や保険加入について学校の取組を知りたい。

#### ・片桐 GL

生徒の環境委員会が、町内会が行っている清掃(地下道、大通り)に参加することが考えられる。

#### ・瓜生 GL

コロナ前は地域清掃を、町内の方と一緒にいった。今年は再開したい。定時制文化発表会も見たい。

#### ・相楽委員

学校の前の通りで交通事故が多いと聞いている。PTAの交通安全委員会でも話し合いを進めたい。

#### ・鑑校長

できるところから地域と連携した活動に参加させたい。例えば、地域のお祭りや盆踊りに部活動(吹奏楽部)の生徒が参加した例も聞いている。学校としても話し合いを進めていく。

### 第1回キャリア部会(15:25~15:50)

大竹委員、副校長(司会)、三戸、野口 GL(記録)、渡邊 GL \*河野委員(部会は欠席)

#### ・野澤副校長

本校は学力向上進学重点エントリー校だが、進路実績が今一つ。進路支援の取組を見直し、生徒の希望進路の実現に向けて取り組んでいく。総合型選抜試験への後押しなども考えていきたい。

他校の例で進学実績が伸びてきている高校の取組に、卒業生によるチューター制導入がある。

#### ・大竹委員より

本校でも湘南国際村における勉強合宿で同様の取組があった。当時、謝金は朋友会から支出した。「この大学に行きたい」と思わせる取組が必要。卒業生には大学の先生も多い。つながりが作れるのでは。

・野口 GL

過去の勉強合宿においては卒業生に現役時代の勉強について生徒が個別に質問をする場面が見られた。先輩とのつながりが本校の強みであり、先輩に触発されて勉強をがんばる生徒がもっと増えるとよい。

・三戸教諭

不合格体験記を話してもらう取組や、体育館で卒業生による個別相談ブースのような分科会はどうか。

・野澤副校長

本校生徒は先輩の話によく耳を傾けている。未来ナビ、合格体験記など今後も継続していきたい。

## 第1回 SSH 部会(15:25~15:50)

鈴木委員、丸瀬委員、全日制教頭（司会）、柴田 GL（記録）、添田

・小飛山教頭

全体会での内容を踏まえ、新しい議案があればここで扱いたい。

・柴田総括教諭

2点ご助言ください。

①外部への情報の発信力を上げることが本校の課題である。地域社会と一体化した発表会やセッションの実施は可能か。

②教員の負担軽減について、現状SSH推進委員会に業務が集中しているように見える。委員の先生方の組織では「働き方改革」をどう進めているか。

・鈴木委員

①横須賀高校のSSHにかかる行事への取組は素晴らしいものがある。HPの更新間隔は少し遅いように感じるが、毎月発行している「SSH NEWS」など外部への情報発信は適宜行っているため、情報が欲しい人には伝わっていると思う。

・丸瀬委員

①横須賀市内の小・中学校への広報活動にはいつでも協力する。中学生やその保護者は、塾の発信に注視している。学校側も塾や予備校を積極的に活用してみてもどうか。

①積極的に情報を欲していない人への周知はやや弱く感じる。メディアの活用や時にプレスリリースも必要ではないか。地元向けのタウンニュースや神奈川新聞の活用をすすめる。

・鈴木委員

②大学教員の働き方は、フレキシブルなので参考にはならないかもしれない。教員はリモートワーク等の制度を積極的に活用している。

②今年度から Principia の連携がはじまったので、大学の教員を上手に使うことで高校の先生方の負担が少し減るかもしれない。

・丸瀬委員

②中学校も一部の教員にかかる負担は大きかったのでアドバイスは難しい。国の施策次第だが、そもそもの教員の働き方について抜本的な見直しが必要であろう。